

2015年大会（福島）提言

2015年7月
公益社団法人こども環境学会

「子どもが元気に育つ復興まちづくり」

東日本大震災の震災から4年が経過した2015年4月の福島大会では、「子どもが元気に育つ復興まちづくり」をテーマに、これまでの復興の歩みを再確認し、被災地全般のみならず、福島県の特殊性も踏まえて、今後の復興に向けた方向性の示唆することができました。特に福島県では子どもの外遊びが制限されていたことによる子どもの体力低下についての問題が大きく課題とされてきましたが、今後は子どもの心の成長にも目を向け、子どもの感受性を高め、豊かな心を育む取り組みにも力を入れていく必要があります。

本大会での議論を踏まえて、以下の通り提言いたします。

1. 子どもの未来をひらくふるさとづくり

子どもが育つにはふるさとが必要です。震災や原発事故によって失われたふるさとを子どもたちのために取り戻すことが第一歩です。復興の大きな目標として、子ども連れの家族が安心して暮らすことができ、地域社会が子どもの成育を見守る、共同体としてのふるさとづくりを実現しましょう。

2. 子どもの参画による、子どもが元気に育つまちづくり

被災地では4年が経過した今も子どもたちの心身に大きな影響が残っています。生活や心の不安、体力運動能力や生活習慣病への危惧などがあります。遊び環境の整備と遊びの活性化によって子どもたちの体を育み、学習・文化活動の環境整備と情操を育む活動への参加の推進などによって子どもたちの心を育むなど、子どもの心身両面に目を向けて、子どもの主体的な参画による、子どもの視点に立った施策によって、子どもが元気に育つまちづくりを進めましょう。

3. 子ども環境づくりを福島から全国、世界へ発信

「共同体としてのふるさとづくり」や「子どもが元気に育つまちづくり」は被災地だけの課題ではありません。少子化や子どもの心身の健康の問題は、全国的な課題であり、世界的な課題でもあります。福島や被災地での真摯な取り組みによって、我が国の子ども環境の改善の方向性を示し、世界に向けて発信しましょう。